

あとがき

短く歯切れの良い文章を書くことは難しい。自分の考えていることを正確に伝えようとすると、どうしても文章は長くなりがちになる。その点で、いつ読んでも感心させられるのは、司馬遼太郎氏の文章である。彼の作家活動のピークであった1960～1970年代は、難解で反体制的な言論がもてはやされた時代であった。そんな中であって、彼の書く文章の明快さ、人物の志の高さに高校時代の私はどれほど惹かれたことか。昨年末、テレビで放映された「坂の上の雲」はその時代の代表作である。今更ながら、よくぞあの時代にこの小説を書いてくれたと感謝するばかりである。この小説の主人公の一人である海軍参謀秋山真之は名文家として遍く知られているが、その最高傑作は日露戦争終結時に東郷平八郎長官により読まれた「連合艦隊解散ノ辞」である。なかでも、「古人曰く、勝って兜の緒を締めよ、と…」で終わる結びの見事さは筆舌に尽くし難い。この結びにより、「解散ノ辞」全体が引き締まり、いわく言い難い余韻を残すことになった。

それに引きかえ、(私を含め)現代人の書く文章は何と冗長なことか。それは昨今の流行歌の歌詞の長さを見ても明らかである。しかも題材の多くが恋愛であり、二人称である。自然の美しさや、郷土愛を題材とした歌と比べ、何と矮小化したことか。「日常の忙しさ」ゆえにそうなったとしたら、それは感性の面での退化ではあるまいか。文章日本語は明治初期、第二次大戦後と二度にわたり、外来思想の洗礼を受けた。その都度、先達は外国の思想を巧みに取り入れ、それを日本語化することにより文章日本語の表現力を豊かにしてきた。ベースボールは野球と訳されたことにより、異なった進化を遂げることになった。昨年のWBC(World Baseball Classic)は、その日本野球がアメリカのベースボールを破ったという点で、実に象徴的な出来事であった。

しかし、われわれは今、外来思想を消化し日本語化する能力を失ってしまった。それは、先達が持っていた漢文や俳句、和歌の素養を失ったことと無縁ではない。秋山真之は、海外留学後、古文書から多くの知識を得た。司馬遼太郎氏しかりである。一方、われわれは今や、解説なしに戦前に書かれた文章の多くを読めなくなっている。これは千年以上にわたる文化の継続が、もはや不可能となりつつあることを意味している。

(塩原 哲夫)

[編集委員]

瀧川 雅浩
伊藤 雅章
塩原 哲夫
渡辺 晋一
天谷 雅行
中川 秀己

学会・研究会のお知らせ掲載

皮膚科関連学会・研究会のお知らせを無料で掲載いたします。開催期日(演題募集がある場合は締切日)の3か月前までにご本誌編集室までお寄せください。

臨床皮膚科 (第64巻 第2号)

2010年2月1日発行(毎月1回1日発行)

定価2,835円(本体2,700円+税5%)

(2010年々ぎめ予約購読料 39,930円
電子ジャーナル閲覧オプション付
52,000円
増刊号を含む13冊・税込・送料小社負担)

(担当:小松原・安部)

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23

電話 本誌編集室直通 (03) 3817-5715

販売部直通 (03) 3817-5659・5660

ファクシミリ (03) 3815-7802

E-mail: rinhifu@igaku-shoin.co.jp

振替口座 00170-9-96693

印刷所 三美印刷(株) 電話 (03) 3803-3131

広告申込所 (有)文京メディカル 電話 (03) 3817-8036

- Published by IGAKU-SHOIN Ltd., 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2010, Printed in Japan.
- 本誌に掲載された著作物の複写・複製・転載・翻訳・データベースへの取り込みおよび送信(送信可能化権を含む)に関する許諾権は医学書院が保有しています。
- **JCOPY** <御出版者著作権管理機構 委託出版物>
本書の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に、(御出版者著作権管理機構(電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。
- 医学書院ホームページ(インターネット)は<http://www.igaku-shoin.co.jp>です。
- 「臨床皮膚科」URL <http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/rinhifu/>